

## 第4次坂出市子ども読書活動推進計画（案） パブリックコメントの実施結果について

### 1. パブリックコメントの実施状況

#### (1) 意見募集期間

令和3年7月21日～令和3年8月20日

#### (2) 意見の受付件数

1人 8件

### 2. 意見の概要と市の考え方

No.	意見の内容	意見に対する市の考え方
1	<p>児童書の年間貸出冊数と不読率増加の分析について</p> <p>9ページの年間貸出冊数（児童書）の過去のデータと16ページの数値目標ですが、不読率の増加との関係が分析されていません。分析のためには総貸出冊数だけでなく少子化の影響も考察するため、年少人口または年少登録者・児童書貸出利用者1人当たりの冊数も併記する必要があるのではないのでしょうか。単純に考えれば、本を読まない子どもが増えている中、本を読む子どもの1人当たりの貸出冊数は増加していると分析できるもののでしょうか。</p>	<p>ご指摘の不読率の増加との関係の分析については、今後の課題として検討したいと考えています。</p>
2	<p>国の基本計画改定のポイントからみた意見</p> <p>①読書習慣の形成に向けて発達段階ごとに効果的な取り組みを推進すること</p> <p>1ページ上から4行目「乳幼児期から、基礎となる家庭での教育力の向上に取り組むことが読書離れの改善への足掛かりになります。」この表現には賛同できません。中学生や高校生が読書をしていない理由について、各種調査結果では「勉強や塾などその他の活動</p>	<p>① 読書離れの現状の追認や養育者のモチベーション低下を懸念されてのご意見ですが、家庭の教育力とは、学力の向上や言語能力の獲得のみを意味するものではなく、子どもの読書の機会を充実させることや読書の習慣化に積極的に働きかけることを意図しています。</p> <p>ご指摘の表現は、その一文</p>

で時間が取れない。」が上位を占めていますが、教育力の向上を目的とした場合、この読書離れの現状を追認することにつながるのではないのでしょうか。

また、国の有識者会議の座長を務めた秋田喜代美氏によれば、乳幼児期における絵本の読み聞かせの頻度と言語能力（言葉の獲得）には何ら相関関係はなく、子どもが絵本の読み聞かせを通じて読書が好きになり、小学生になってからも読書習慣が継続して初めて、言語能力や論理能力に差が生まれることが分かっています。つまり赤ちゃんは絵本の読み聞かせをしようがしまいが、その発達のタイミングで言葉を獲得するのであり、乳幼児期からの家庭での教育力の向上を目的とした場合、言語能力の獲得に読み聞かせの頻度が影響しないため、養育者のモチベーションが下がることが懸念されます。大事なのは、「読書習慣の形成・継続」にあるのであり、そのポイントを踏まえた記述にすべきであると考えます。

子どもが本と初めて出会うのはブックスタートですが、ブックスタートではリードブックではなく、シェアブックという考え方を大切にしています。本を媒介にして、親、保護者、大人たちと赤ちゃんが楽しいひとときをシェア（共有・分かち合う）する。家庭での教育力の向上といった堅苦しい目的がある読書より、緩やかな幸せな時間と空間を分かち合うというような楽しみから出発するほうが読書習慣が身につくのではないのでしょうか。

のみならず、前後の文章も含めて計画策定の趣旨や経緯を端的に表したものでございますので、現状のままといたします。

3	<p>②友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取り組みを充実すること</p> <p>新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」が盛り込まれたことにも関連しますが、子どもは単に大人から本を薦められる存在ではなく、自らも読書推進をする主体としての役割があるのではないのでしょうか。国の基本計画改定の基礎資料となった「平成28年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究(文部科学省)」によれば、不読率が高い中学生・高校生では、読書をするきっかけとなった人的なつながりは、学校の先生や身近な大人よりも「友達がおすすめの本を教えてくれたり、貸してくれた」が多い結果となっています。</p> <p>そこで特に中学生・高校生に関しては、友人同士でも本を薦め合うなど、子ども同士が読書への関心を高めるような取り組みの推進が有効と考えられます。貴図書館ではすでに「高校生が薦める本の展示コーナー」など実践されており、そのような有効な事例について第4次坂出市子ども読書活動推進計画にも書き込むべきだと考えます。なお、全体的に高校生に関する記述が少ないですが、香川県が平成28年度から個別の子ども読書活動推進計画を策定していない現状を鑑みると、教育委員会の所管が違う高等学校での取り組みを除き、高校生も含めて市の計画を策定すべきではないのでしょうか。</p>	<p>② 本図書館の活動にご理解をいただきありがとうございます。既に行っている中学生・高校生に対する取り組みについても記載すべきとのご指摘ですが、ご提示いただいた取り組みは、現時点では単発での取り組みに留まっており、他の取り組みとの均衡を図り、今計画への記載は行わないこととさせていただきます。</p> <p>高校生も含めて市の計画を策定すべきとのご意見については、今後の課題として検討したいと考えています。</p>
4	<p>③情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実</p>	<p>③ 本市の子ども読書活動推進会議においても、インターネッ</p>

	<p>態把握と分析</p> <p>現在, 国においてもこの論点は調査・研究を行っている段階で, 施策として反映されるのは次期基本計画からになると思います, すでに共通理解が得られている現状分析だけでも方策が打ち出せるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば, インターネットのウィキペディアである人物について検索すると, プロフィールやその人物が書いた著作物(1次情報)がある場合その一覧が示され, その人物について書かれた研究書等(2次情報)からの引用などで, その人物について概観し理解することができます。つまりインターネットからの情報は3次情報と言えます。しかし, 主体的にその人物について理解しようとするれば, 実際の著作物や研究書を読んで自分なりに深く理解することが必要です。この1次情報・2次情報を得るためには本が必要であり, 図書館の役割が当然出てきます。学校での調べ学習などでインターネットと紙の本のそれぞれの長所を生かしたモデル事例を提示し, 読書につなげる取り組みは既に実施しているかも分かりませんが方策として示せるのではないのでしょうか。</p>	<p>トや SNS といった情報環境の変化は意見が上がり, 多くの利点と懸案が示されています。国においてもこの論点は調査・研究を行っている段階ですので, 今後とも国や県の動向を注視してまいりたいと考えています。</p>
5	<p>その他</p> <p>①15 ページ上から 17 行目「バリアフリー化」</p> <p>「バリアフリー化」と聞くと, 従来どおりの段差の解消や障害者用トイレの設置など施設のハード面の改善をイメージしてまいります。貴図書館は既に実施済みと推察します。令和元年 6 月 28</p>	<p>① ご指摘のありました項目内の文言については, ハード面の改善を意図していますので, 現状のままといたします。</p> <p>読書バリアフリーの実現に向けた施策については, 全庁的に対応を検討していくものと考えております。</p>

	日に施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)の実現を企図しているのならば、「読書バリアフリーの実現に向け」等の表現のほうが方針が明確に伝わります。	
6	<p>②読書習慣の形成に必要なことは、図書館利用習慣の形成</p> <p>子どもが読書を好きになり、自主的に読書をするようになる「読書習慣」が身につくためには、具体的には、貴図書館や学校図書館、公民館図書室や児童館などで実際に本を借りる習慣が身につくことが必要であると考えます。図書館学習などで啓発は行われていると思いますが、図書館の利用主体として子ども自らが図書館利用カードを申し込めるようになっているのでしょうか。例えば小学校を通じれば本人確認書類は必要なく、小学生でも申請できるようになっているのでしょうか。</p>	<p>② ご指摘のあった内容については、既に対応しております。引き続き子どもが利用しやすい図書館運営を心掛けてまいります。</p>
7	<p>③学校の読書支援ボランティアの組織化について</p> <p>私はこれまで娘の成長に合わせて特定の幼稚園と小学校の読み聞かせ活動に関わってきました。他の学校の状況は把握していませんが、幼稚園においては現役の子どもの保護者が読み聞かせボランティアとして関わっていましたが、小学校においては現役の生徒の保護者は私一人であり、他のボランティアは保護者のOBか図書館友の会のメンバーが複数校掛け持ちで従事していました。小学校における読み聞かせやブ</p>	<p>③ 現在、読書支援ボランティアの方々の活動により、子どもたちの読書活動を支えていただいております。本計画に基づき、ボランティア活動がより充実するよう取り組み、また、ボランティアの組織化内についてのご意見も今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>ックトークなどは、子どもが本を好きになり読書習慣を定着させるためのきっかけになる大切な取り組みだと考えます。そのために読書支援ボランティアの組織化は有効な対策だと考えますが、幼稚園・小学校において新入生の保護者から義務的ではなく希望者を募り読書支援ボランティアを組織化することはできないでしょうか。当然、そのための研修会や意見交換会等を実施してほしいと思います。読書支援ボランティアが増えれば、必然的に子どもと本について会話する機会も増え、読書を通じた教育力の向上にもつながるものと考えます。</p>	
8	<p>④学校図書館の運営について  私が学校支援ボランティアとして関わっている特定の小学校の図書室の図書環境は、学校司書の配置や学校図書館図書整備等5か年計画の成果で、ここ数年で明らかに良くなってきています。しかし、令和2年度教育要覧を読むと、簡略した形であれ各学校の経営方針に読書活動が掲げられているのは、中学校5校中1校、小学校10校中3校しかありませんでした。平成28年に策定された国の「学校図書館ガイドライン」では、「校長は、学校図書館の館長としての役割も担っており、校長のリーダーシップの下、学校経営方針の具現化に向けて、学校は学校種、規模、児童生徒や地域の特性なども踏まえ、学校図書館全体計画を策定するとともに、同計画等に基づき、教職員の連携の下、計画的・組織的に学校図書館の運営がなされるよう努めるこ</p>	<p>④ 本計画に基づき、子どもたちの読書活動を支えるため、学校図書館のより一層の充実を図っていきたいと考えています。いただきました貴重なご意見につきましては、今後の学校図書館を利用した読書活動の推進の参考とさせていただきます。</p>

	<p>とが望ましい。例えば、教育委員会が校長を学校図書館の館長として指名することも有効である。」と示されているところです。</p> <p>学校図書館は子どもにとって最も身近な図書館です。子どもの読書習慣の形成に向け、学校間で格差が生じないように配慮をお願いいたします。</p>	
--	--	--